

荒振神 午の天  
 のみと申はくは根元  
 小若武塔天祥南流の  
 女子の月こふかよのせあふ  
 時日くまて巨且招来と  
 りんめ小宿とよりあふた  
 るさげ巨且か才小獲氏  
 とらふりのあり余しくをら  
 く一ハじうとも宿とらし  
 まあうせあつくささむ  
 あさまう象とくとあぬお  
 くとく粟の供所とまう  
 ーとぞ



そのち八年と経て去  
 天神八人のいよとつ  
 身小獲氏かりあつらふ  
 さたし宿とつらつら  
 あいんしあかめ  
 化より暴夜をまを  
 人てままさんて天神  
 うてびととまうめす小  
 よう獲氏小若て才の  
 とつらしめはひはら家  
 のうちほらる茅のこ  
 あつらとて一ハ人

茅の輪  
 まま  
 りそご  
 流  
 不  
 月日  
 め  
 あ  
 一ハ人

思ひつらふ程愛は消息  
 くらと返し一程入るき  
 めも事なりりそな  
 近況紙死をま考の物  
 所せまて果  
 集束の事平抑右人の記  
 おる様見えしはあ神

藤氏一のまふちのまを  
 つる事その夜大凡  
 ありこれよりまふち  
 くつらひ北をるのあひ  
 さい藤氏が教門  
 のことつらべりのまふち  
 とそのまふち神これのま  
 そのまふちのまふち  
 まひ今より天下小  
 さまら藤氏がまふち  
 まふちのまふち  
 まふちのまふち



沙錫羅龍王  
 藤氏  
 藤氏



藤氏一のまふちのまを  
 つる事その夜大凡  
 ありこれよりまふち  
 くつらひ北をるのあひ  
 さい藤氏が教門  
 のことつらべりのまふち  
 とそのまふち神これのま  
 そのまふちのまふち  
 まひ今より天下小  
 さまら藤氏がまふち  
 まふちのまふち  
 まふちのまふち

藤氏一のまふちのまを  
 つる事その夜大凡  
 ありこれよりまふち  
 くつらひ北をるのあひ  
 さい藤氏が教門  
 のことつらべりのまふち  
 とそのまふち神これのま  
 そのまふちのまふち  
 まひ今より天下小  
 さまら藤氏がまふち  
 まふちのまふち  
 まふちのまふち

性古、日本小宗のまふち  
 荒振神、海を渡るの  
 二十六代清和天皇貞観  
 十一年院宣のまふち  
 志平乃まふち  
 桑山城の國ふらつ  
 云を乃よりまふち

疫癘、天龍神、神代  
 世神、南海、沙錫羅龍  
 主乃、娘、后、おせん、嫁  
 出ま、内、藤氏、おま、家  
 宿、藤氏、おま、家  
 粟の佐中、おま、家  
 八年、藤氏、おま、家

八神子神

年於天皇南海の御禰  
蘇我王の御禰すあそ  
さひ女と居し〜さひ  
八人の御禰とまうけ  
中人い子するのち曆  
りる八神子神あり  
さあ女ハ年神の御  
御ありとの人蘇我の  
竹の禰あり

大率神



大率軍



大強神



歳刑神



英愷神



歳被神



一夜の宿民の御禰  
人爲不來を茅土穠成  
化して蘇我氏の子孫也  
是のち一夜の宿民の御禰  
宿と誓ひせ給へん今も  
四葉京極少く業の御禰

宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰  
宿民の御禰

